

科目名	日本語表現法2			ナンバリング	JPN141	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	帆苅基生	担当教員					

授業の概要	この演習は、日本語の様々な表現方法について学ぶことを目的とする。文章を書く、語彙力をつける、といった基礎的な力を身につけるだけでなく、日本語の特質や日本文学の表現の歴史を学び、文章を書く力に磨きをかけることを目指す。						
到達目標	1. さまざまな表現の歴史を学び、理解することができる。 2. 自分の考えを客観的に伝えることができる。 3. 破綻のない論理的な文章を書くことができる。 4. 基礎的な表現力を身につけ、それを実践し、わかりやすい文章を書くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	新聞を読む、ニュースを見る、新書を読むなどして、つねに社会に関心を持つようにすること。自分の意見を持ち、学生生活を送ること。履修に必要な予備知識は特にない。わからない漢字はその場で調べるよう心がけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・授業内で出された課題を、期限を守り提出することができること。 ・誤字・脱字が少なく、わかりやすく文章を書くことができること。 ・授業中に発言を求められた場合は、自分の意見を述べることができること。 ・論理的な思考を身につけようとすることができること。 ・具体的な例を挙げて論証しようとすることができること。 ・首尾一貫した文章の作成ができること。 ・社会の問題について、自分の考えを述べることができること。	・授業内で出された課題を、必ず期限を守り提出することができること。 ・誤字・脱字がなく、わかりやすく文章を書くことができること。 ・授業中に発言を求められた場合は、自分の意見を論理的に述べることができること。 ・論理的な思考を身につけることができること。 ・具体的な例を挙げて論証することができること。 ・課題ごとに首尾一貫した文章の作成ができること。 ・社会の問題について、理路整然と自分の考えを述べることができること。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		55%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		25%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1. 課題を添削し返却する。 2. 前回の課題の留意点について説明し、優れたものを紹介する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	「日本語表現法1」の復習	「日本語表現法1」で学んだ内容の復習と、この演習のガイダンス。	
	第2回	いわきの文学を知る①	いわきを題材にした文学について学ぶ。	
	第3回	いわきの文学を知る②	いわきを題材にした文学について学ぶ。	
	第4回	表現力を鍛える①	故事成語、誤りやすい言葉などを学び、語彙力を高めるための方法を理解する。	
	第5回	表現力を鍛える②	普段使用している表現について考え、言葉についての問題を学ぶ。	
	第6回	レポート・論文の心得①	引用の方法を復習し、正しい引用方法について理解を深める。	
	第7回	レポート・論文の心得②	ディベートの方法を復習し、自分の意見を述べる方法について知る。	
	第8回	レポート・論文の心得③	演繹法と帰納法について復習し、それぞれの特色について学ぶ。	
	第9回	表現の歴史①	日本語の表現の歴史について学ぶ。	
	第10回	表現の歴史②	散文(小説)の表現の歴史を学ぶ。	
	第11回	表現の歴史③	韻文(詩・短歌・俳句)の表現の歴史を学ぶ。	
	第12回	小論文を書く	これまでの復習を行い、論理的な文章の書き方を再確認し実践する。	
	第13回	さまざまな表現①	言葉で表現しにくいものについて知る。	
	第14回	さまざまな表現②	ノンバーバル・コミュニケーションとは何かを知る。	
	第15回	さまざまな表現③	ライトノベルズの方法と問題点について学ぶ。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		教科書は指定しない。プリントを配付する。		
授業外学習の指示		返却された課題を必ず読み返し、問題的を明らかにしておくこと。また、授業で紹介された話題について調べ、参考図書を読んでおくこと。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	使用しない。
参考書	教室で指示する。
参考URLなど	教室で指示する。
その他	この演習は、「日本語リテラシー」「日本語表現法1」で学んだ内容を発展させて行う予定である。従って、「日本語リテラシー」「日本語表現法1」を履修した学生を求める。